



七色のかがやき

長崎市立虹が丘小学校 学校便りNo.10

令和7年 11月 4日 (火)

編集・発行責任者 校長 池田敏典

E-mail e52@nagasaki-city.ed.jp

G-mail nijigaoka@gmail.com

心をつなぐ三つの言葉

銀杏の葉も色づき始め、金木犀の香りとともに、秋の気配を感じるようになりました。二学期も後半に入りました。



さて、私事で恐縮ですが、昨年夏に高校の同窓会に参加した時の話です。現在、外国で暮らしている友が言ったことが心に刺さりましたので御紹介します。

「長いこと日本を離れているが、随分と人の様子が変わったようだ。一番に思ったのは、礼儀を知らない人が増えたことだ。特に、サンキュー、ソーリー、プリーズの三つの言葉が、あまり聞かれない。そのせいか、出会う人が皆、怖い表情で、他人のことは知らない、関係ないといった態度に見える。」
と、残念そうに言ったのでした。

日本語にすると、「サンキューは“ありがとう”」、「ソーリーは“ごめんなさい”」、「プリーズは“どうぞ”や“お願いします”」ですね。

人に何かしてもらった、分からぬことを教えてもらった、親切にしてもらった時、「嬉しい」「有り難い」といった感謝の気持ちを伝えるのは、“ありがとうございます”的の言葉です。言った人も言われた人も、お互いに笑顔になれる素敵な言葉ですよね。また、電車やバスの中、或いは歩道で肩と肩がぶつかった時、うっかりして相手に迷惑をかけてしまった時、“失礼しました”や“ごめんなさい”があると、嫌な気分でいた相手も、ふうっと心が和み、嫌な気分がすっと消えてしまいます。こうした言葉が自然に出るようになると、けんかやいがみ合いが少なくなるのだろうと思います。

三つ目のプリーズですが、人に何かを頼むとき、外国では、必ずプリーズをつけるそうです。頼むことの後にプリーズをつけると、「よろしくお願いします」という意味で、相手を尊重する気持ちを込めることができます。人に何かを頼む時、“お願いします”的の一言を添えるだけで、頼まれた人は気持ちよく動ける

のではないかでしょうか。また、電車やバスに乗る時など“（お先に）どうぞ”と譲るのも、お互いが気持ちよくなるものです。

「サンキュー」、「ソーリー」、「プリーズ」の三つの言葉は、人との心をつなぐ大切な言葉であり、言葉は心の表れです。私も、《感謝》、《謙虚》、《思いやり》といった心を耕していくなければと思った次第です。

『言葉』が心の栄養になる

身体の健康保持には、適度な運動とバランスのとれた食事が大切ですね。実は、心の健康にも同じことが言えるようです。では、心の運動とは？心の食事とは？「心が動く」、「心が躍動する」、「心が満たされる」、「心が豊かになる」などといった表現があるように、興味が惹かれ心がわくわくしたり、感動したりして、心の栄養になっているのではないかでしょうか。

ある雑誌で、次のエピソードに出会いました。

ある球団に二人の外国人選手が入団しました。一人は、最初に覚えた日本語が「大丈夫」。もう一人は「しんどい」だったといいます。その後、「大丈夫」を覚えた選手は活躍しましたが、「しんどい」を覚えた選手の成績は振るわなかったそうです。初めて覚えた言葉ですから、ことあるごとにつぶやいたことでしょう。

言葉が心に与える影響がいかに大きいかを示したエピソードではないでしょうか。

だんだん、言葉から品格が失われつつあるように感じています。子どもたちの間では、相手にとって嫌な言葉や傷つく言葉が飛び交う状況が見られますが、自分を、そして、周りの人を勇気づけ、前向きにしてくれる言葉を大切にしていきたいものです。本校が目指す「七色のかがやき」の一つ、『良い言葉でみんな仲良し』は、『落ち着きのある生活』にも、他の五色にもつながります。大切な色として身に付けて欲しいものです。

『お陰様』で…

修学旅行、宿泊学習と、御家庭の御協力により、無事に実施することができました。10月の小体会では、保護者の皆様の応援が、子どもたちの力となりました。2年生の町たんけんでは、保護者の皆様による見守りで、子どもたちは安全に学習することができました。他にも、家庭科の実習でも保護者のサポートをいただきました。いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いします。